

2024年度 北見縣高等学校シラバス

〔教科〕 〔科目〕	〔数学〕〔数学A〕	2年	2単位	教科書	最新 数学A(数研出版)	副教材等	3 TRIAL 数学A (数研出版)	履修対象・ 使用教室 等	フロンティア (必修) ・HR教室
教科・ 科目の 目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。								
評価の 観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。			数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
評価 方法	* 単元などの授業内容のまとまりごとに「評価の観点」に基づいた観点別評価を行い、〔A:「十分満足できる」状況 B:「概ね満足できる」状況 C:「努力を要する」状況〕とする。 * 単元などの観点別評価に基づいて、学習全体の総括的な評価を行ったものを「5段階の評価」とする。								
評価 資料・ 評価 比重 (100点換算)	評価資料等		予定回数・内容等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	単元テスト		「節」ごとに実施します。計4回実施予定			50	50		
	授業態度・自主課題の提出		問題演習やレポート課題などの取り組み状況、3 TRIALの自主的な演習					100	
	確認テスト・レポート課題		適宜実施し、その都度、理解度をはかります。			50	50		
	〔観点別配分%〕		〔3観点の比重を%で示しています〕						
月進行 (計画)	【単元名】 学習項目名	配当 時間 (計画)	学習内容・目標 (到達点) など			主な評価資料		評価の重み付け〔○〕	
4 5	第1章 場合の数と確率	12	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 集合、集合の要素の個数、樹形図、和の法則、積の法則、順列 円順列、重複順列			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
6 7	第1章 場合の数と確率	12	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 組合せ 第2節 確率 確率の基本性質、和事象の確率、積事象の確率、余事象の確率			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
8 9	第1章 場合の数と確率	10	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 独立な試行の確率、反復試行の確率、条件付き確率、期待値			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
10 11	第2章 図形の性質	12	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 角の二等分線と比、外心・内心・重心、チェバ・メネラウスの定理 第2節 円の性質 円周角の定理、円に内接する四角形、円と接線、接線の作る角、方べきの定理、2つの円			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
12 1	第2章 図形の性質	10	第2章 図形の性質 第3節 作図 いろいろな作図 第4節 空間図形 多面体、オイラーの多面体定理など			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
2 3	第3章 数学と人間の活動	14	第3章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 1次不定方程式 3 記数法			単元テスト	◎	◎	
						授業態度・自主課題の提出			◎
						確認テスト・レポート課題	◎	○	
学習の アドバイス	・数学Ⅱの基礎基本の定着を徹底します。 ⇒基礎基本の定着（知識・技能）なくしては、応用問題や入試問題（思考力・判断力・表現力）に対応できない。ゆえに、教科書レベルの内容の定着に特化します。 ・進学希望者は3 TRIALの積極的な取り組みや平日講習である「数学演習F」や土曜日講習である「数学演習β」に積極的に参加し、実践演習を積むことを強く勧めます。 ・数学は積み重ねの教科です。 家庭学習の習慣が必須となります。 授業では「理解」、家庭学習にて「定着」を心がけてください。								